



「明治、大正、昭和、平成、次？」

2017年も大変厳しい一年を走り抜き、なんとか新しい年を迎えることができた。さて今年はどうなることやら。少し過去を振り返りながら、先の事を勝手に考えてみた。

昨年を振り返り、天皇陛下の生前退位に関するニュースが大きな関心事の一つではあったが、本年は明治元年(1868年)から起算して満150年を迎える年にあたる。これにより内閣官房より「明治150年」に向けた関連施策への取り組みが行われているが、コンセプトは明治時代の精神を学びながら、日本の強みを再認識し、現代に活かすことで日本の更なる発展を目指す基礎を作ることとされている。明治時代から149年間、日本の文化はどのように変化したのか気になったので調べてみた。簡単に記載すると、

明治時代は、内閣制度や立憲政治の確立、西洋文明を取り入れた文明開化、第一次産業革命と言われる石炭や蒸気を動力とした軽工業が発展した。大正時代は、ラジオ放送開始や洋食文化の発展、野球等のスポーツが大衆の娯楽となった。昭和時代には、第二次産業革命と言われる石油を動力とした重工業が発展した。高度経済成長期よりテレビ、冷蔵庫、洗濯機が一般家庭に普及した。また、ベビーブーム到来により現代で言う団塊の世代が生まれ、人口が急激に増えた時代でもあった。平成時代はインターネットの急激な普及に伴い、携帯電話やパソコンが一般的に活用され、全体が情報化社会へと成長していった。

少し調べただけでも、明治時代から今日に至るまで、目まぐるしく社会が変化しており、驚きを隠せない。国民の暮らし一つとっても、昭和と平成の時代では環境が全く違うことが分かる。たしかに子供のころ当たり前のようにありふれていたものが、いつの間にか消えていたり、別のものに置き換わったりしていることがある。時代に合わせて形態を変えながら、生き残っているものもあれば、昔から変わらないものもある。人生100年時代と言われる現代人にこの歴史を当てはめると、この149年間のうち3分の2を経験することになる。長い人生の中、何度も社会の変化を経験するので、何も考えず過ごしていると、取り残されてしまう可能性がある。

時代の変化に振り回されないよう、各々が将来を見据えて、常に考えながら行動し、適応力を身につけることが大切である。特に超高齢化社会を迎える日本は、一人ひとりが知恵を出し創意工夫をしながら、多くの可能性と次の価値を見出していくことが必要ではないかと考える。 (T.T)